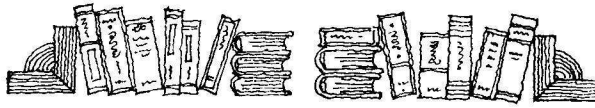


国語国文学会だより



No. 2

1989. 10

国文学科卒業生の会

国語国文学会

秋季大会・公開講演会へのご案内

平成元年度の秋季大会・公開講演会を、右の要領で開催いたします。ご多忙の御事と存じますが、ご出席くださいますよう、ご案内申しあげます。なお、会員以外の方々のご来場も歓迎いたします。

時・平成元年11月25日(土)午後一時～
場所・八十年館 八五一教室



* 回生委員会

* 総会

- (1) 開会の辞
- (2) 学科スタッフ紹介
- (3) 委員会報告
- (4) 自主ゼミ活動報告
- (5) その他

* 講演

- (1) ヨーロッパの図書館
国文学科教授 浅野 三平先生
- (2) 童話と私
児童文学作家 安房 直子先生
- (3) 閉会の辞

懇親会へのご案内

秋季大会終了後、新しくオープンした桜楓会館に場所を移して、先生方、在学生をまじえての懇親会を開催します。

会員同士の交流、母校へのきいたんのないご意見など、今後の会の飛躍発展につながるような、交歓の場にしたいと存じます。

ご出席のご希望は、当日受付けにて、大会の開会開始までにお申し込みください。会員の皆様方

の、多数のご出席をお待ち申し上げます。

時・午後五時三十分～七時三十分

場所・桜楓会館三階

会費・卒業生 二千元

在学生 一千元

(大会受け付場にて申し込み時に)

秋の講演会・講師プロフィール

安房 直子氏

一九四三年、東京に生れる。一九六五年日本女子大学国文学国文学科卒業。存中より『目白児童文学』などに童話を書きはじめる。

短編集『風と木の歌』で小学館文学賞を受賞。おもな作品に『南の島の魔法の活』『銀のくじやく』『遠い野ばらの村』『風のローラースケート』などがある。

「何かひとつだけ、とても好きなものをもっている、このことだけは誰にもまけないみたいにおもえるものをもつとね。人間である程度ちゃんと生きられるようになりそうですよ。」

私も一生懸命ものをかくことで、他のマインス面を少しはカバーできるようにになったかなあ。と苦手なことでも悩んでいるよりも、好きなことにとことんうちこんでいくうちに、だんだん悩まないようになるというようない……そういうのありますね。」

この言葉に、グリムが好きで、アンデルセンが好きで、少女の頃はとても内向的でおとなしかったという安房さんを感じられます。

るような気がします。

うすいもやがかかったような、しずかな安房さんの世界は、『ざらざらした素焼の皿』を感じさせるようなやさしい、不思議な世界であります。

浅野 三平氏

一九三二年、名古屋市東区に生れる。一九五四年、東京大学文学部卒業。同大学院修了。日本近世文学専攻。京都女子大学教授を経て、現在日本女子大学教授。

主著に『秋成全歌集とその研究』『近世中期小説の研究』『新潮日本古典集成雨月物語癡癡談』などがある。

昨年、一年間欧州諸国を研修のため歴訪されました。また新しくおもしろいお話をきかせてくださることと、学生一同期待しています。

(三年 斉藤視和記)



春の総会・研究発表会報告

五月十八日(木)香雪館四〇一号室において、国語国文学春の総会・研究発表会が開催されました。

第一部は研究発表会で、学部卒業生、院生、院修了生による熱心な発表(論題等、前号にて既報)が行われました。

第二部は総会で、会則説明後、在学生と、今回はじめて卒業生の会よりも、平成元年度の活動計画案、予算案、自主ゼミ設立の承認、また役員紹介等を行いました。さらに、麻原美子学会会長による挨拶があり、ここにおいて、卒業生の会としても、実質的な活動が始まったことへの一層の期待が寄せられました。

また、麻原会長より青木生子・上村悦子・木藤才蔵諸先生の名誉会員へ推挙についての提案があり、満場一致で賛成。最後に久松賞・佐山賞・上村賞・中島賞の授与が行われました。

ただ、今回の出席者が大変少なかったことが残念に思われます。在学生、卒業生ともに、研究を推進し、活動を広げる努力を続けてゆきたいものと思います。

(高野記)

平成二年度春の総会は

平成二年五月中旬の予定です。

「自主ゼミ」報告

*枕の草子を読む会

平安貴族社会の細部を時々刻々と再現できるような枕の草子の読み方を志しています。

下玉利百合子氏による問題提起は、様々な問題を掘り起こしますが、紫式部日記との比較も試みながら、清小納言の筆致の特徴を捉え、特に「大納言まゐりたまひて」の段の伊周の様相を、当時の社会情勢に重ね合わせて追ひ、清女の初宮仕えの時期、正暦四年秋説について熱心なディスカッション、検討を行っています。

第3回・12月2日、第4回・来春3月予定
連絡先 高野 晴代(03・三七〇・六八〇六)

*『皇女総覧』(平安朝編)作成ゼミ

様々な資料を各々読み進め、皇女関係に記事を拾いあげ、カード化する作業にかかりきりです。史料は全て漢文なので読みやすいとは言いがたく、しかも丹念に数ページ読み進めても、皇女の記事が行かない、ということも。

カード化作業が終了後、史料集として出版しまた、古代・中世、近世の皇女総覧へと作業を広げる予定です。月一回・不確定土曜日

連絡先 柳沢理恵子(03・五五八・四三九五)

*現代俳句——中島斌雄先生の俳句を中心に——

まだ活動を始めるに至っておりません。今秋

先生の全句集刊行を機に、現代俳句の進むべき一方を目指した先生の作品を読みつつ、多くの現代の作家作品にもふれてみたいと思っています。

毎月第三土曜日 午後2時30分より(予定)

国語国文学会会議室(図書館四階)
連絡先 綾野道江(04・九六六・五四二五)

*古代中世文化論——作庭記・新猿楽記・

花伝書・等伯画説・徒然草ほかを読む——

7月29日(土)、午後、泉山館第三会議室にてオープニング記念講演「古代中世における日本文化」東京女子大学教授大隅和雄氏。学内、学外から参加者がありました。聴講自由。

8月26日『洛陽田楽記』、9月30日『新猿楽記』10月28日・11月25日『新猿楽記』を予定、その後『花伝書』を予定。

毎月第四土曜日 午後1時30分

国語国文学第十研究室

連絡先

山田佐和子(03・九七二・四八四三)

児玉久美子(03・七一八・〇二六七)

*国文学科卒業生の文学活動をたどって

まだ実際の活動に至っておりません。近々講師を招き、第1回の会を開き、方針、日程など具体的な活動に入ります。

連絡先 斎藤 令子(03・七八一・六三八〇)

文学散歩・観劇会を行う

——学生の部会——

国語国文学会・学生の部会では、前半期の主な活動として、文学散歩と観劇会を行いました。

五月二十日の文学散歩は、当時開催中の「装束と調度にみる宮延の生活展」見学を主眼とし、由来古く、近代の文人が歩き、作中人物が歩いた湯島聖堂・神田明神の参詣見学を計画しました。当日は主催者高倉研究所の方にご説明を頂くことができ、熱のこもった充実した見学をさせて頂きました。予定の時間を大幅に上回り、湯島聖堂と神田明神の散策はやむなく割愛しました。

観劇会では、七月八日、国立劇場にて「歌舞伎鑑賞教室『鳴神』」を鑑賞しました。まずわかりやすい説明があり、知識も豊かになり、「鳴神」は中村富十郎の鳴神、中村時藏の雲絶間姫という配役で、雲絶間姫の美しき、後半の二人のかけあいの絶妙の呼吸、鳴神上人の変貌などを楽しみました。

後期は一度計画を中止した静嘉堂文庫や佐倉国立民族博物館の見学を予定しています。卒業生の皆さまも、ぜひご参加ください。

伝言板

国語国文学会へのお誘い

クラスの友人に、ぜひご入会をお勧めください。入会には会費の納入をもって承認されます。

年間会費 千円

納入方法 郵便局から振替用紙使用で。

振替番号 東京九一九七〇七

加入者名 日本女子大学国語国文学会

*当会から入金のお知らせはいたしません。振替用紙の受領書を、保存しておいてください。

会費納入について

会費を毎年振込むのは面倒なので何年分かまとめて納入できると都合がよい、というご意見が聞かれますので、一年分以上まとめての納入も受け付けることにいたしました。ご都合のよいようにお振込みください。

一年分、千円です。

ただし、まとめて納入いただいても割引になることはありません。また、将来、会費に変更があった場合には、差額をいただくこととなりますので、合わせてご了承ください。

振替用紙で納入の場合は、何年分と明記してください。

なお、秋の大会当日も、会場にて納入を受け付けますので、よろしくお願い申し上げます。

『国文目白』第29号ができました

国文目白 目次

西村 遠里考 浅野 三平

王朝歌人伝に関する一、二の疑問

村山 恵美

桃田 聡子

枕草子一五七段の読み 上丸恵都子

『騎旅漫録』考 鈴木 昌嘉

『坊っちゃん』試論 木内 英実

『行人』論 田中 愛

『藪の中』試論 溝部優実子

『或阿呆の一生』論 黒澤真奈子

横光利一「赤い色」の作品世界 久本千佳子

『金閣寺』試論 原 佳代子

『捷解新語』の条件表現(一)「ナラバ」 奥津敬一郎

中島 悦子

〔書評 紹介〕・〔彙報〕

*申し込み 千112 東京都文京区目白台「こへ」

国文学科研究室『国文目白』係

*会費納入時に申し込まれた方には、お送りします。重ねての申し込みは必要ありません。

*冊子代金は、冊子到着後に払い込んでください。千五百円ぐらいの予定です。(送料共)

会報の名称について

前号で会報の名称を募集しましたところ、皆さまから提案をいただきました。検討の結果、もう少し時間をかけ、活動が軌道にのれば、自ずから相応しい名称が生まれるかも——という結論に達しました。しばらく、「国語国文学会だより」として、年二回の発行をつづけたしたいと思います。ご応募くださいました皆さま、ありがとうございました。

自主ゼミ設立・ご希望の方へ——

「国文学科内 国語国文学会 卒業生の会・企画係」あて、はがきで申し込んでください。
①研究テーマ ②責任者名 ③住所・電話番号
④ゼミメンバー(3名の会員がすでにいること)
設立の紹介は来春の総会で行います。

当会の運営について

国語国文学会卒業生の会は、回生委員会、またその中の常任委員、学校側委員による常任委員会の討議によって運営されています。回生委員名簿を同封いたしますので、ご希望、ご意見をお寄せください。

一九八九年十月二十五日

発行・日本女子大学国文学科

国語国文学会 編集委員会